

こんな本を読んできました

今夜もおやすみなさいを言う時間がやってきました。

けれど、女の子の頭のなかは「どうして？」がいっぱいで眠ってなんていられません。

「ねえ、パパどうして？」

女の子からのとどまることない「どうして？」攻撃。これが自分への質問だったら、どう答えるでしょう。科学的に？それとも答えられずに笑ってごまかす？

パパからの解答は、詩的でとってもステキ！子どもの想像の翼がどんどん広がっていきそうです。そして、美しい絵は大人も充分楽しめる作品です。

さあ、そろそろ眠る時間。「めをとじてみえるのは」なんでしょ？見開きいっぱい広がる世界に、豊かで限らない宇宙に包まれるような気がします。

あなたもどうぞステキな夢を見てくださいね。

タイトル **めをとじてみえるのは**

著者 **マック・バーネット／文
イザベル・アルスノー／絵
まつかわまゆみ／訳**

出版 **評論社**



呉市と関わりのある作家や事柄の 所蔵資料を紹介します。

郷土資料



タイトル **熱狂のお好み焼**

著者 **シャオヘイ**

出版 **ザメディアジョン**

広島のスoulフードともいえるお好み焼！

みなさんはその歴史や真のルーツを知っていますか？

「なぜ大阪と広島でだけお好み焼文化が花開いたのか」「広島焼という言葉に違和感があるのはなぜ？」などの興味深いテーマを数々のお好み焼を食べ歩いてきた著者が熱く解説しています。呉のお好み焼屋さんの名前もたくさん出てきます。ひいきのお店が登場するかもドキドキします。

特に興味深かったのが広島県内でも基本的な作り方は同じなのに地域によって具材や形が違うことです。呉でも呉焼きと呼ばれるお好み焼があるように三原や尾道、庄原などにも地域の特徴を取り入れたお好み焼があるそうです。これを参考にオリジナルのお好み焼を作ってみるのも楽しいかもしれません。

きっとこの本を読めばぶち美味しいお好み焼が食べたくになりますよ！